

生活文化局長の海外出張について

1 出張者・出張先

生活文化局長 古屋 留美
ニューヨーク（アメリカ合衆国）

2 出張日程

令和8年7月14日（火）から7月19日（日）まで（6日間）

3 出張目的

ニューヨークにおいて、アーティスト支援及び文化施設の先進的取組、アートを活用したまちづくりの取組を調査し、東京の文化政策や文化施設の在り方の検討に資する知見を得ることを目的とする。

現地では、アーティストの創作環境向上支援、公共空間へのアートの創出、文化施設における先駆的取組の手法等について、関係機関へのヒアリングや関連施設の視察を行う。

については、これらを目的として、職員を現地へ派遣する。

4 経費

6,535,638 円

5 同行者数

2名（文化振興部）

6 出張の日程

7月14日（火）

移動日

(1) ニューヨーク市内パブリックアート等視察

7月15日（水）

(1) ブルックリン・ミュージアムとの意見交換

(2) International Studio & Curatorial Program (ISCP) との意見交換

(3) ニューヨーク市内アーティスト創作拠点等視察

7月16日（木）

(1) ニュー・ミュージアムとの意見交換

(2) ニューヨーク市内パブリックアート等視察

(3) ニューヨーク近代美術館視察

(4) 体験型展望台「サミット・ワン・ヴァンダービルト」視察

7月17日（金）

(1) メトロポリタン美術館視察

(2) Tokyo Geidai Art Festival in New York 視察

7月18日（土）

移動日

7月19日（日）

移動日

7 報告事項

- ・ ニューヨークにおけるアーティストの創作拠点やレジデンシーの視察及び関係者等との意見交換を通じて、作品制作にかかる機器提供をはじめとするアーティスト支援及び創作環境向上施策、国際的なネットワーク形成の重要性などについて理解を深めた。
- ・ ニューヨーク市内におけるパブリックアートの展開について、ハイラインや市内公園、美術館等における視察・ヒアリングを通じて、パブリックアート財団の活動や作品循環の仕組み、資金調達、作品の制作委託の手法など、公共空間や文化施設でのアートの創出に向けた課題と可能性について認識を深めた。
- ・ ニューヨーク市内の文化施設等の視察や意見交換を通じて、美術館の資源を活用した子ども向けプログラム、寄附・協賛を活用した運営手法、デジタル技術やイマーシブ体験を取り入れた新たな鑑賞機会の創出など、文化施設等の事業運営に関する先進的な取組について知見を得た。